

2019 アートマイル国際協働学習プロジェクト 報告書

日本学校名 [愛知県立常滑高等学校] 担当教諭名 [榊原 麻起子] (ESS 部・美術部 35名)
 相手国・地域 [アルメニア]
 海外学校名 [Yerevan N198 High School] 担当教諭名 [Kristina Gevorgyan]

■実施教科・時間数について教えてください。

アートマイルに関連した 実施教科・時間数	教科 部活動	単元名 アートマイルプロジェクト	時間数 32
-------------------------	-----------	---------------------	-----------

■作品に込めた想いについて教えてください。

題 (テーマ)	Let's Grow a Dream Tree with the Power of Education!
メッセージ (相手と想いを合わせて 世界に発信したいメッセージ)	男女や貧富の差に関係なく、教育の力で自分の将来を切り開き、自分の夢を実現できるような明るい未来をつくりたい！という想いを絵に込めた。絵に描かれた木はザクロで、ザクロはアルメニアでは特別な意味を持つ木だそうだ。中の粒の1つ1つが1年の日数を表し、「新しい命の誕生」というような意味があり、8つの実に自分たちが実現したい未来を描いた。



■今回の取り組みの成果と課題はどういった点でしょうか？

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちの住んでいる地球には国は違っても同じ課題があるのだということを認識できた。 ・外国に興味を持つことができるようになった。 ・外国の高校生とのコミュニケーションを楽しむことができた。 ・自分の文化や伝統、価値観などを客観的に見られるようになった。 ・異なる価値観を持つ人と協働する経験を楽しむことができた。(違う部活動の部員との協働作業でもあった。) ・自分たちがアルメニアと共同制作した壁画に誇りを持つことができた。(自分たちの取組についても評価することができた。) 	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動での実施だったので、学校行事などの関係で時間が十分にとれなかったり、相手側とのタイミングがずれる場合があり、もう少し内容を深めたいと思っても十分にできなかった場合があった。 ・もっとビデオ通話などでリアルタイムでのコミュニケーションをしたかったが、こちらの英語力が足りず、言いたいことが自由に言えなかった。 ・全体でいつも動いているので、個々の生徒の顔と名前が一致するような生徒同士での交流がもっとできるとさらによかったのではないかな。 ・校内においても2つの部活動で協働して実施したので、人数が多く個人の取り組む姿勢にかなり温度差があった。

■アートマイルに取り組む前と比べて相手の国・地域や世界に対して意識はどう変わりましたか？

児童生徒の意識の変化	教師の意識の変化
<ul style="list-style-type: none"> ・この取組で全く知らなかった国を知るきっかけを得て、そのことで世界の他の国なども知りたいと思うようになった。 ・遠い国ではあるが、自分たちと同じように人々が暮らし、共通点も多くあると言うことに気づき、アルメニアという遠い国を近くに感じるようになった。 ・SDGsを知って、世界で起きていることについて知り、自分で考えることが大切だと思えるようになった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・その国の文化や伝統を知ることにより、その国に対する興味・関心が高まり、一度自分でも訪問してみたいと思うようになった。 ・生徒たちがSDGs等の課題について話し合う過程を見ていて、こういう活動は日本の教育の中でもっと必要だと感じた。 ・「生徒は何も知らない」とか「生徒には難しくできない」と決めつけるのではなく、一緒に学ぶことで生徒のいろいろな側面を知ることができた。

■主な活動の流れを教えてください。

場面	時期	活動内容	児童生徒の反応	実施教科等
出会い 自己紹介	4月 ～ 8月	アルメニアについてのクイズをして、アルメニアはどんな国なのか、知る機会を作った。アルメニア側も日本センターを訪問したり、日本についてのプレゼンを行ったりして、それぞれの国についての知識を深めた。その後、動画やイラストなどを用いて、自己紹介をして、パートナー校の生徒を知る活動を行った。夏休みには日本からクイズを作って動画を撮影し、私たちの学校や、常滑、愛知、日本の文化などについてアルメニアに知ってもらおう機会とした。	アルメニアという国について全く知らない生徒がほとんどだったが、向こうから送られてきた写真や動画でとても興味を持つようになった。また、自分たちもアルメニアについて知るためにインターネットなどを使って調べ(夏期休業中に実施)、それをグループごとに発表した。自分たちで主体的に動くことによって、知ったことについてもっと興味を持つことができた。また、日本や自分たちの文化についてのプレゼンを考える際に自国のことについて客観的に考えることができた。	部活動 6
共有 テーマ学習	9月 10月	SDGsについてそれぞれの国で学び、このプロジェクトで取り上げるゴールを何にするか、話し合った。また、日本側の学校祭でアルメニアについての発表をして、アートマイルに参加していない生徒たちにもプロジェクトの意味と内容を知ってもらった。	SDGsを知らない生徒がほとんどであったが、自分が「一番なんとかしなければいけない課題はどれ？」というトピックで発表させた際に同じような意見を持っている人と自分とは違う角度でものを考えている人がいるというのを知って、それぞれの意見は違っても、それを認め合うことが大切だと感じた。	部活動 8
融合 メッセージ作成	10月 11月	アルメニアと相談しながら、絵に表すテーマに関するSDGsを3つ選び、お互いが学んだことをプレゼンした。最も大切なことが教育であると気づき、それをテーマに絵を描くことを決めた。またどのような絵にするのか、ビデオトークでアルメニアと日本をつなぎ、顔を見ながら、絵で表す内容について協議した。	住んでいる国は違っても、同じような問題があることに気づくことができた。また、それぞれが大切と思っている課題についてなぜそう思うのかを発表することによって、想いを共有することができた。両方の国が大切と思うゴールを融合させてメッセージを作成することができた。お互いの意見を尊重し合うことができた。	部活動 6

創造 壁画制作	11月 ～ 1月	どんな絵を描くか、どこに何を描いて、どんな想いを絵で表現するのか、何度も意見を出し合って最終的にコンセプトを決めた。アルメニアでは“新しい命の誕生”というような特別な意味のある”ザクロ“の木に生徒たちが描く未来を實にして成らせようと決め、壁画制作を行った。	どんな絵を描くかを定めるまでが大変で、生徒たちもどうしたらいいのか、かなり頭を悩ませていた。お互いの意見をまとめて、絵に描く内容の合意をして、作成に取りかかった。美術部は絵の細部にこだわるので、かなり時間がかかったが、生徒の方から「土曜日にも登校して完成させよう」と提案があり、完成することができた。	部活動 10
評価 振り返り 自己評価	2月	日本側からの配達に時間がかかったが、アルメニアは非常に短期間で壁画を完成させ送ってくれた。戻ってきたのがテスト期間でもあったので、あまり時間をとって振り返りをすることができなかったのが残念だった。	こちらから絵を完成させて送る際に、年賀状を作ってアルメニアの生徒たち一人一人にコメントを書いて送った。向こうから絵が完成して送り返されたときには、完成した絵を見て生徒全員がとてうれしそうであった。	部活動 2

■アートマイルでついた力について教えてください。

評価 (5:とてもついた 4:ついた 3:どちらともいえない 2:あまりつかなかった 1:つかなかった)

学習目標・つきたい力	評価	先生が手応えを感じた場面・理由
自文化を理解する力	4	自分の国については知っているようで知らないということに気づくことができた。
異文化を理解する力	5	「理解する」というより、理解しようという態度は育まれたのではないかと思う。知らなかった国だったが、みんなとても興味を持って取り組めた。
情報活用能力 (収集・まとめ・発信)	4	自分たちで調べたことをグループで発表させるという形態を何回もとって、意見をシェアしたが、だんだんとうまくなっていく様子が見られた。
コミュニケーション力 (双方向・共感・英語)	4	アルメニアとのコミュニケーションは英語力が足りずに苦勞した。部活動の中ではだんだんと話ができるようになっていった。
批判的に思考する力 (客観的・論理的視点)	3	客観的に物事を見ることはできたと思うが、論理的に考えて、課題を考えるという点ではもう少し深く考えることができるとよかった。
主体的に考え行動する力	4	最初はこちらからの指示待ちが多かったが、だんだんと取組が進んで行くにつれて、次はこうしたらいいのではないかなど、自分たちで考えて動くことが多くなった。
他者と協働する力 (学級内・海外の相手)	4	他国との協働、違う部活動との協働という2つの協働作業であった。相手の考えを尊重し、どのように自分(たち)の考えと折り合いをつけるか、生徒たちは考えて動くことができた。
想いを言葉や形にする力 (メッセージ作成・壁画制作)	5	自分たちがなぜそういう絵を描きたいかということをきちんと相手に説明し、相手も納得した上で壁画制作にとりかかることができた。
評価する力 (作品の鑑賞・学習の自己評価)	4	振り返りのための十分な時間をとることができなかったが、送られてきた完成したときのみんなの顔がすべてを物語っているように感じた。また、自分たちがこの取組を通してどのように変わったかということをそれぞれがまとめることができた。